

(様式 1)

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第二小学校

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・授業のめあてを明確にし、学習の見通しをもたせる。学習活動を焦点化し、スモールステップ [※] の設定、ICT 機器の活用、視覚的手がかりを基に、理解を図る。学び合う場面を多く設定し、思考の共有化を重ねる。	中間評価		最終評価	
環境作り		・教室前面の視覚的刺激を調整し、時間の視覚化や本時、単元の予定などの見通しを提示するなど、児童が学びやすい環境を整える。タブレット端末の活用、個に応じた教材の準備など、一人一人に応じた個別の配慮を行う				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学ひらがな・カタカナについては正確に書けるようになってきているが、漢字については、正確に書ける児童と定着が不十分な児童に、力の差ができています。	・字形にも気を付けて丁寧に、かつ正確に漢字を書けるように指導していく必要がある。	・授業や家庭学習において、デジタルドリル等を用いて漢字の反復練習の時間を計画的に位置付け、取り組ませる。		
		学自分で考えて文章を書くことが難しい場面が見られる。	・言葉自体の理解や自分で考えたことを文章に書き表す力を伸ばしていく必要がある。	・「書くこと」の学習の一環として、視写や文章構成を考えた文章を書く等の活動を継続的に取り入れ、児童同士の交流も取り入れながら表現力を高めていく。		
		学語彙の習得が少なく、文章を読解する力が十分ではない。	・言葉の意味を捉える力・読解力について、継続的に指導していく必要がある。	・音読カードも利用しながら音読に継続的に取り組み、読書の機会を増やしたり、「言葉の宝箱」（語彙表）を必要に応じて利用したりすることで語彙力を高める。		
	算数	学練習問題では、具体物を活用したり、既習事項を確認しながら反復したりして問題練習することで、計算の技能や基礎的な知識・理解が徐々に高まっている。	・計算の技能や知識・理解に個人差が見られる。既習事項をもとにしながら繰り返し計算練習を行っていく必要がある。	・授業の始めに、関連する内容の既習事項の計算に触れて、問題に対する抵抗感をなくして課題に取り組みやすくしていく。また授業や家庭学習の中で、個に応じてドリルやプリント、デジタルドリルなどで反復しながら、苦手な問題に取り組む指導を継続していく。		
学文章問題で問われていることを理解し、自力で解くことが難しい場面がある。		・文章問題で問われていることが理解できず、順序に沿って解くことが難しい児童がいる。何を答えるのか、どのように立式して答えを求めるかを指導していく必要がある。	・「①授業の中で具体物を活用したり例を挙げたりする。」、「②『分かっていること』と『求めること』は何かを明確にする。」、2点を実施していくことで、文章問題を正しく読み取る力を付けていく。			
		学文章問題で式を立てることはできるが、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童がいる。	・式の立て方や問題の解き方について、自分の考えを説明する力に課題がある。自分の考えを発表する場面を多く設定していく必要がある。	・授業の中で、ノートに自分の考えを書いたり、ペアや全体で考えを共有したりする場面を多く設定する。また、自分の考えを示すための話型を示し、話合いが苦手な児童の抵抗感を減らす。		

3	国語	【調】「文章を書く」について、全国平均と比較すると 13 ポイント下回る結果となった。特に、指定された長さで文章を書いているという項目については目標値から大きく下回る結果であった。 【調】「お話を考える」については、67.7 ポイントと平均値や目標値を上回っている。特に語と語の続き方に注意しながら文章を書く力に課題があると考えられる。 【学】漢字については細かいところの間違いが多い。また、熟語などの意味を把握している児童が少なく、語彙力を高める必要がある。	・語彙が少なく、物語を読む中でも「こしらえる」「えりすぐり」などの言葉の意味が分からないため、深く文章を読むことができていない。語彙力を増やしていく工夫を取り入れる必要がある。 ・文と文のつながりを意識して文章を書く力が弱い。主語と述語の関係性を意識して文章を書かせることや接続詞を活用して文章に厚みをもたせる指導が必要である。 ・漢字の止め・はね・はらいなど、細かい部分まで正しく書けていないことや、既習の漢字を活用して文を書くこと、熟語を文章の中で活用できていないことが課題である。	・国語辞典の使い方をマスターし、分からない語が出てきたときに国語辞典を引く習慣を付け、語彙力を高めていく。また、漢字学習で熟語に触れる機会を作り、熟語の意味を確認したり、「言葉の宝箱」（語彙表）を活用したりしながら、適切に言葉をつかえるように指導していく。 ・物語を作ったり、日記を書いたりすることで文章を書く習慣を付ける。また、本をたくさん読む機会を設け、様々な文体の本と触れ合うことで文章の成り立ちや言葉の使い方を覚え、正しく文章を書くことができるようにする。 ・普段の学習から、既習の漢字を用いて文を書くように、継続的に指導する。また、デジタルドリル等を用いて漢字の反復練習の時間を計画的に設け取り組ませる。	
		【調】「かけ算の文章問題」について、全国の平均正答率と比較すると、5 ポイント下回っている。2 の段や 3 の段の九九に関しては 96% 出来ているが、乗法九九を適応して立式する問題については課題残る。 【調】記述式の問題では、全国平均や目標値を上回るものの、無回答が 20 パーセントを前後見られるなど、課題が残る。特にたし算の「何十の数の和を求めて、示された金額で買えるかどうかを判断し、その理由を説明する」という問題の解答率が低い結果であった。 【学】授業や課題の取り組みを見ると、学習意欲の高い児童が多く、意欲的に取り組んでいる。しかし、時刻と時間の求め方の学習では、既習事項を生かして取り組む児童がいる一方で、分と秒の概念が定着せず課題が残る児童も少なくない。	・特に、かけ算九九の 6、7、8、9 の段の定着に課題が見られる児童おり、既習内容についてもさらに定着を図ることが課題である。 ・文章をしっかり読み解く力、それに対する自分の考えの根拠をもって説明できる力を伸ばす必要がある。 ・時間の読み方が身に付いていない児童もいるので、実体験を基に考えたり、実感を伴って理解ができるような手立てを工夫したりする必要がある。	・毎日かけ算のます計算を課題に出し、かけ算の定着を図り、わり算の学習に進めるようにする。また、朝の時間や家庭学習でもデジタルドリルを活用し基礎・基本の学力の定着を図る。 ・ICT を活用し、文章を絵や図で表し場面を具体的に想像しながら問題を把握できるようにする。また自分の考えを、しっかり文章で書き、互いに伝え合うなど説明する機会を多く設ける。 ・時計など具体物を用いて、丁寧に指導する必要がある。さらに、具体物を用いて互いに問題を作って出し合うなど、繰り返し定着を図る。	
4	国語	【調】「説明文の内容を読み取る」については、「叙述を基に段落の内容を捉えている」が 82.3 ポイントと目標値を 12.3 ポイント上回った。毎回の説明文の単元で段落構成をおさえていた成果と考えられる。一方で「物語の内容を読み取る」については、「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えている」の正答率が 67.2 で目標値を 7.8 ポイント下回っている。全体の中では低い数値になっている。 【調】「漢字の読み・書き・言語の学習」については、全体的に正答率が目標値を上回っており、定着が見られる。 【調】「文章を書く」については、校内の正答率が 47.4 と低く、目標値を 17.6 ポイント下回っている。 【学】辞書を活用する場面を日常的に取り入れたことで、使い方を理解し、語彙力、表現力の向上を図ることができた。	・物語文の読解において、内容を丁寧に読み取るとともに、場面ごとに、登場人物の行動・様子から気持ちを想像して、読み取る力をつけていく必要がある。また、ポイントとなるキーワードを見付ける活動を取り入れるなど、内容を正確に読み取る力を伸ばす必要がある。 ・漢字の読み書きや言語に関する知識技能においては、学習への取り組み方が身に付いている児童と、身に付いてない児童の差が大きい。 ・書く力に関して、日記など体験したことを書く力は定着が見られるが、指定されたテーマについて自分の考えを書く力が課題である。様々な場面や形式で考えを書く機会を設ける必要がある。 ・設定された場面では辞書を使用することができているが、日々の学習の中で自主的に辞書を活用できている児童は少ない。言語能力の向上を図る必要がある。	・叙述の細かい部分に着目した読み方だけでなく、中心人物の気持ちの変化や場面の移り変わりに着目した読みを繰り返し、物語・説明文の読解力を定着させる。 ・学習への取り組み方が身に付いていない児童には、具体的な取り組み方を丁寧に示すと同時に、デジタルドリルなど個別に家庭学習や漢字の読み書き等に関する学習の課題を設定して、繰り返し取り組めるようにする。 ・何について書くのか視点を明確に示し、書き出しの例を示すことで書き方を身に付けさせる。他教科でも広く、自分の考えを書く場を意図的に設定する。 ・国語を中心に、他教科でも学習の際は、常に辞書を近くに置くようにし、必要な場面で自ら調べられるようにする。またタブレット端末でも視覚的に調べるように促す。	

		【調】全体の校内正答率が69ポイントと、目標値の67ポイントを2ポイント上回っている。継続して復習問題に取り組みせ、既習事項の定着を図る必要がある。 【調】たし算・ひき算（3けたや4けた）は、校内正答率が目標値を上回っている。一方で、計算の仕方の説明や、答えの求め方の説明では、校内正答率が38.6ポイントと6.4ポイント下回っている。 【学】デジタルドリルや計算ドリルを継続したことで、既習事項の定着を図ることができた。また、コンパスや定規などの操作経験を積ませたことで、作図に関して技能の定着が見られた（コンパスアート等）。	- 桁数の多い筆算において、計算の仕方は理解できているが、九九や繰り上がり繰り下がりの計算の定着が不十分なために誤答が多い。 - 計算の仕方の説明や、答えの求め方の説明など、自分の考えを分かりやすく説明することに課題がある。 - コンパスや定規の操作においては、定着している児童と定着していない児童の差が大きいことが課題である。	- 筆算の計算問題は、定期的に家庭学習などでデジタルドリルを活用し、繰り返し取り組み、定着を図る。 - 計算の仕方の説明や、答えの求め方の説明等、今後も自分の考えを説明する学習機会を多く設ける。 - 教具の操作活動を多く取り入れるなど、作図の技能を高める。また、「文章問題や応用問題」「繰り下がりのひき算と九九」については、習熟に応じた指導を通して、正しく読み解いたり計算したりする力を伸ばしていく。		
5	国語	【調】「書くこと」の領域で正答率が低く、全国平均と比べ12ポイント下回っている。無解答も22ポイント以上いたので時間配分に課題があると考ええる。一方で、「読むこと」は、物語文・説明文いづれも目標値を上回っている。 【調】「言語の学習」の問題では、主語と述語の関係の理解が54.7ポイントで、目標値を約11ポイント下回っている。 【学】学習得した漢字を活用したり、文を長く詳しく書いたりすることが苦手な児童が多い。	- 書くことに対しての苦手意識のある児童が多い。また決められた時間で、文章を書く機会が十分でないの で、時間内に限られた文字数や、決められたテーマに基づき考えをまとめて書くことができるように指導をする必要がある。 - 誤答傾向から、主語・述語・修飾語の関係を理解ができていない児童が多かった。主語・述語・修飾語の関係を意識した文作りや読み取りの経験が少ないことが課題である。 - 既習の言語事項について、習熟を深める言語活動に取り組む必要がある。	- 時間や字数を決めて書く機会を増やしたり、文体に合わせた表現方法を指導したりすることで、書くことに慣れるようにする。また、日記や作文、振り返り文などの課題を出し、内容の中心を明確にしながら、詳しく具体的に書く力を高める。 - 文作りを通して、主語・述語、連体修飾語等の理解を図る。その際、「言葉の宝箱」（語彙表）や国語辞典を積極的に活用して、語彙力を高める。 - 既習の言語事項を振り返ることができるプリントやデジタルドリルの課題に取り組ませる。また、既習の漢字を用いた文作りを行う。		
	算数	【調】各領域、全国平均と比べて、平均値をやや上回っている。内容別に見ると「小数」の問題が、他の問題よりも正答率が低い傾向く、区の平均よりも4ポイント低い。 【調】「億と兆、概数」の問題では、読み取り方や数直線に示された数を表すことは、全国平均とほぼ同様であるが、概数を求める問題では約13ポイント下回った。 【学】文章問題や応用問題において、立式をしたり、順序よく解いたりすることが苦手な児童が多い	- 小数のしくみについての理解が不十分である。また、基礎的な計算力がまだ不十分な児童もあり、学習に必要な計算力について習熟する必要がある。 - 概数を使って答える問題では、四捨五入の方法や位について丁寧に確認をしながら読み取る必要がある。 - 立式に苦手意識をもつ児童が多く、文章中から根拠を見つけたり、数直線を活用したりして、考えさせる必要がある。また、例を示しながら、応用問題も順序良く解くことでこれまでの学びを生かせることに気付けるようにする。	- 家庭学習を通して4年生の小数の問題を復習する。また、短時間でできる小数の計算プリントやデジタルドリルを授業開始時や終了時に継続的に取り組ませる。 - 概数を使って答える問題を復習する際、デジタル教科書で教師が示しながら、四捨五入の仕方を再度確認し、自分で説明する力を高める。 - 問題から数直線を描き、それをもとに、立式できるようにする。また、立式に苦手意識をもつ児童には、立式する前に、問題を図解で示したり、デジタル教科書の動画等を用いたりして、視覚的な支援を行うことで定着を図る。		
6	国語	【調】「読むこと」の正答率は、全国平均を5ポイント上回り、定着しつつある。国語への関心意欲は、全国平均よりやや下がるが、ほぼ同等である。 【調】「書くこと」の正答率は、全国平均よりも3ポイント程低い。昨年よりは改善が見られているが、解答時間が足りずに、最後まで取り組めなかった児童も見られた。 【学】授業での課題やワークテストの状況から漢字の読みは比較的できるが、漢字を正しく書くことに関しては課題が残る。	- 物語の内容よりも、説明文の読み取りへの課題が大きく、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することが難しい。 「書くこと」について、自分の考えを相手意識や目的意識をもち、豊かに表現したり文章を構成したりする力が十分でない。文章を読んで、まとめた意見を共有したり自分の考えを広げたりすることにも課題が見られる。 - 前学年で配当された漢字を書くことが、十分に定着していない。	- 文章の概要を読み取ってから、キーワードとなる言葉を確認し、要点をまとめる力を付ける。また、読書の機会を増やしたり、「言葉の宝箱」（語彙表）を活用したりして語彙力を高め、読解力のさらなる向上を目指す。 - かきまるタイムや週末のテーマ作文の課題等で、日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。構想が難しい児童には、モデル作文を示し、表現の幅を広げられるようにする。また、国語辞典の活用や文章を見直す習慣を付け、語彙力や表現力の向上を図る。 - ノートや作文の中でも学習した漢字を意識して使えるようにしていく。授業の中でも漢字の復習時間を設けたり、家庭でデジタルドリル等を活用して練習を積み重ねる習慣を付けたりしていく。		

	算数	【調】各領域、全体ともに、全国平均と比べて、平均値とほぼ同様である。 【調】「少数のかけ算・わり算」は、全国平均を 3.6 ポイント上回った一方で、「分数のたし算・ひき算」は、12.6 ポイント全国平均より下回っており、課題である。 【調】「単位量当たりの大きさ」「比例」「平均」の問題では、全国平均とほぼ同様であるが、記述式の解答結果は個人差が大きく見られた。 【学】文章問題を順序よく解いたり、正しく図形を捉えたりすることが苦手な児童が多い。	・基礎的な計算力がまだ不十分な児童もあり、学習に必要な計算力について習熟する必要がある。 ・分数の理解や通分、約分などの技能が十分についていない児童がいる。さらに定着を図る必要がある。 ・単位量当たりの大きさなどの文章題を読み取る力が少しずつ付いている一方で、立式した自分の考えを説明するまでは難しい児童がいる。 ・立式が苦手意識をもつ児童が多く、文章中から根拠を見つけたり、数直線を活用したりして、考えさせる必要がある。また、図形を正しく捉えるために、記号やマークを活用していく必要がある。	・単元ごとに、短時間でできる既習の計算プリントやデジタルドリルを授業開始時や終了時前に継続的に取り組ませる。 ・課題に応じて、復習プリントやデジタルドリルなどに取り組み、授業や家庭学習の中で、学習の定着を図る。東京ベシックドリルの5年生分に取り組む。 ・児童がタブレット端末やノートを活用して、自分の考えを説明したり、考えを伝え合ったりする機会を十分に設け、式や絵図、数直線などを活用して説明する力を伸ばしていく。 ・必要な問題では、絵図や数直線をもとに、立式できるようにする。また、図形に苦手意識をもつ児童には、デジタル教科書の動画を用いて視覚的な支援を行ったり、自身で操作したりしながらイメージをもてるようにしていく。		
	音楽	【学】表現活動において、自分の思いや意図を表そうとする姿が多く見られる。しかし、音楽を形づくっている要素を使って、自分の思いや意図を言葉で伝えることに課題がある。 【学】鑑賞活動において、音楽のよさや面白さを感じ取ってはいる。その一方で、共通事項（曲のしかけ）を手掛かりにして、楽曲を味わうことに課題がある。	・強弱や音色、拍など、音楽を形づくっている基本的な要素を十分に理解していない。 ・音楽から聴き取ったことと感じ取ったことを自分の言葉で伝える力に個人差が見られる。	・出来るだけ多く、曲と関わらせながら音楽の用語について理解する機会を設け、音楽を形づくっている要素をつかって言葉での表現力高めていくようにする。さらに自分の思いや意図を友達に伝える場面を設定する。 ・友達と聴き取ったことと感じ取ったことについて共有する場を設け、対話の中で気付きや考えを深めることができるようにする。		
	図工	【学】表現の活動では、絵や立体、工作へ意欲的に取り組む姿が多く見られる。きっかけがあれば楽しく活動できる一方で、発想することや自分の考えに自信をもつことに課題がある児童が見られる。 【学】鑑賞の活動では、楽しみながら個々に作品のよいところを見つけ、伝え合うことができる。発展として、見方を変えて自分の考えを深めたり、友達の作品から想像を広げたりすることを目指す。	・表したいものが思い付く児童がいる一方で、表現に繋げるための思考や判断などのきっかけが掴めない児童がいる。また、表したいものがあるが、自分の思うように表現できないと感じる児童がいる。 ・一度思いをもつと、そこから違う見方をしたり、イメージを広げたりすることへ意識が向きにくい。	・児童の発想へつながる導入を行うとともに、個別に支援が必要な児童には選択肢を用意したり、教師との会話の中で発想したりできるようにする。また、表したいものを表す力を身に付けるために、道具や材料の体験を充実させ、基礎的・基本的な技術の定着を図るようにする。 ・イメージを明確にするために、造形的な要素に着目させ、感じたことを認識できるようにする。また、友達と共有したり、全体へ発表したりする場を設け、対話の中で気付きや考えを深めることができるようにする。		
	特支	・自分の思いを伝えることに課題をもつ児童が多く、コミュニケーションを通して心を通じ合わせることへの苦手さが見られる。 ・場面を理解したり数の操作をしたりすることに課題をもつ児童が多く個に応じた指導が必要である。	・自分の思い通りにならないと、感情的になったり自信をなくしたりしてしまう傾向が見られる。 ・取り組みの意欲の高まりが見られるが、習熟度に大きな差がある。	・表情カードの選択や適切な気持ちの言葉を日常的に指導し、気持ちよくコミュニケーションがとれた経験を積ませる。 ・児童の実態に応じ、国語・算数ごとにグループ編成を変えて指導を行うと共に、タブレット端末を活用し個に応じた学習指導を行う。		

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。